

6-2 九州地方とその周辺の最近の地震活動（1993年5月～10月）

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District (May–October, 1993)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1993年5月～1993年10月までの震央分布を第1図に示す。また、第2図には1993年5月～1993年7月までの、第3図には1993年8月～1993年10月までの震央分布を示す。

この期間、震源決定された地震は1013個で、前期に比べ150個近くも多く地震活動は活発であった。活動は日向灘から奄美大島にかけてのプレート境界が活発でマグニチュード(M)4以上の地震の大部分がこの海域で発生している。特に、5月上旬と8月上旬に（一時的に活発化した）種子島近海に集中的に発生した。

期間中、気象官署で観測された有感地震は5月8回、6月5回、7月6回、8月8回、9月3回および10月5回の合計35回であった。このうち6回は種子島近海を震源とする地震である。また、期間中、M4以上の地震は35個(Mmax:5.6, 8月2日, 種子島近海)であった。

観測された最大震度は、8月2日の種子島近海の地震(M5.6)による震度3(宮崎・油津・鹿児島)であった。

1. 種子島近海の地震活動

1993年8月2日12時13分、種子島の東約60kmでM5.6(深さ49km)の地震が発生した。この地震により宮崎・油津・鹿児島で震度3, 種子島・都城で震度2, 枕崎・人吉で震度1を観測したが、被害の報告はない。地震活動の詳細については本巻別項「種子島近海の地震(1993年8月2日 M5.6)」を参照されたい。

2. 島原半島・橘湾の地震活動および雲仙・普賢岳の火山活動

1993年5月～1993年10月までの島原半島・橘湾の震央分布図を第4図に、1990年1月～1993年10月までの雲仙岳測候所の日別地震回数, 有感地震回数, 微動回数を第5図に示す。

8月14日、橘湾を震源とする地震で雲仙岳測候所では有感(震度1)となった。

雲仙・普賢岳の地震活動は引き続き活発な状態が続いたが、特に5月中旬～下旬, 7月末～8月中旬にかけて地震回数が増加した。8月7日の日回数は2,604回で、1967年4月の観測開始以来最多となった。

火山性微動(火砕流回数を含む)は、5月～9月頃までは数十回、多い日で100回近く発生したが、10月には減少し日回数は10回以下が多かった。

山頂の溶岩ドームは成長と崩落を繰返し、火砕流の発生が続いた。火砕流の発生回数は日に数回～30回であった。6月下旬には流下距離の長い火砕流が発生した。

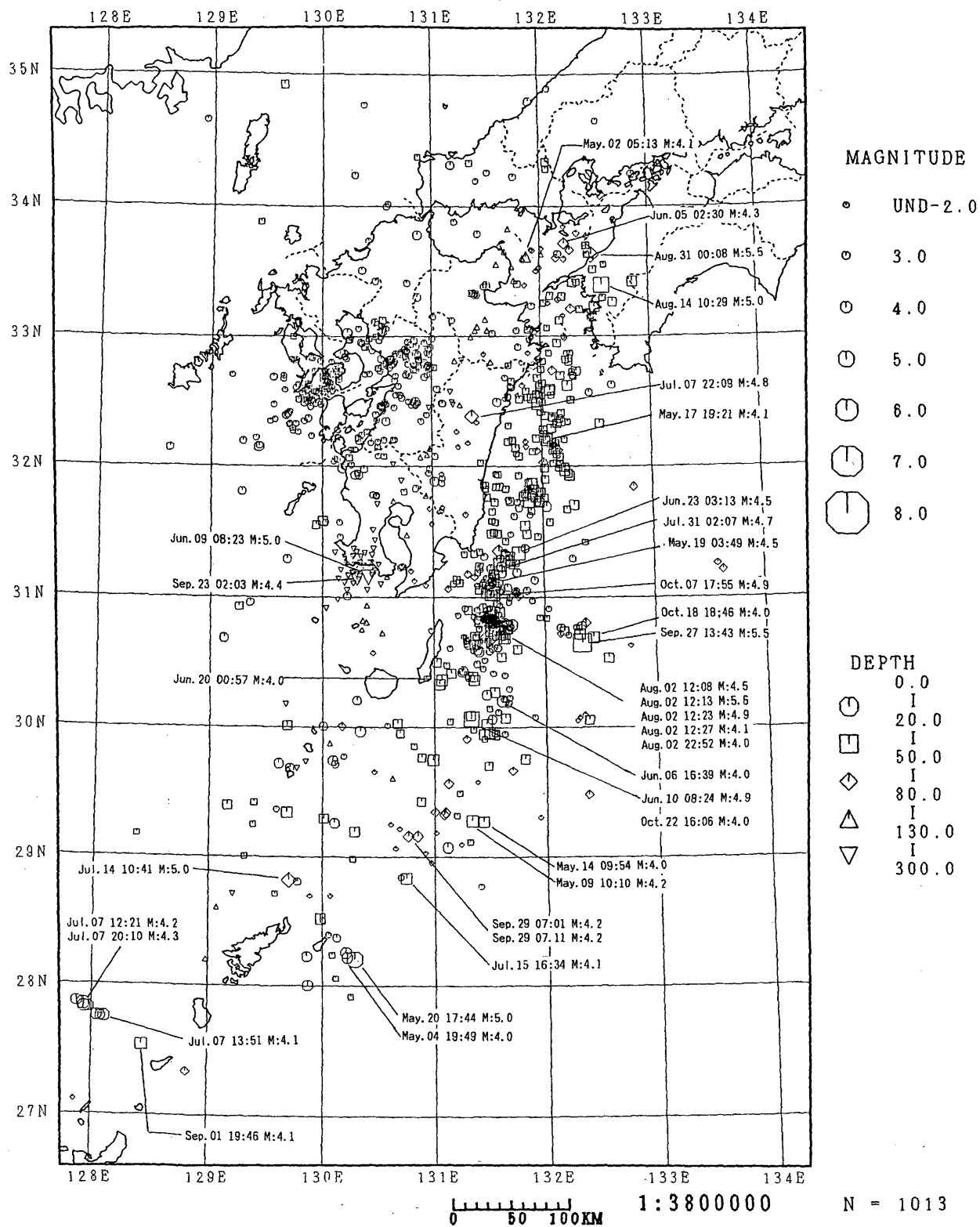
6月23日にはおしが谷方向(北東方向)に規模の大きな火砕流が発生し、これまで直接火砕流が達していなかった島原市千本木地区を流下し、死者1名の人的被害が発生した(火砕流による人的な被害は平成3年6月以来)。また、6月26日には火砕流が水無川(東方向)に流下し、その先端が初めて国道57号線を越えた。

火砕流の発生回数は10月には次第に減少した。

震央分布图

(1993/5/1 0:0-->1993/10/31 24:0)

福岡管区气象台



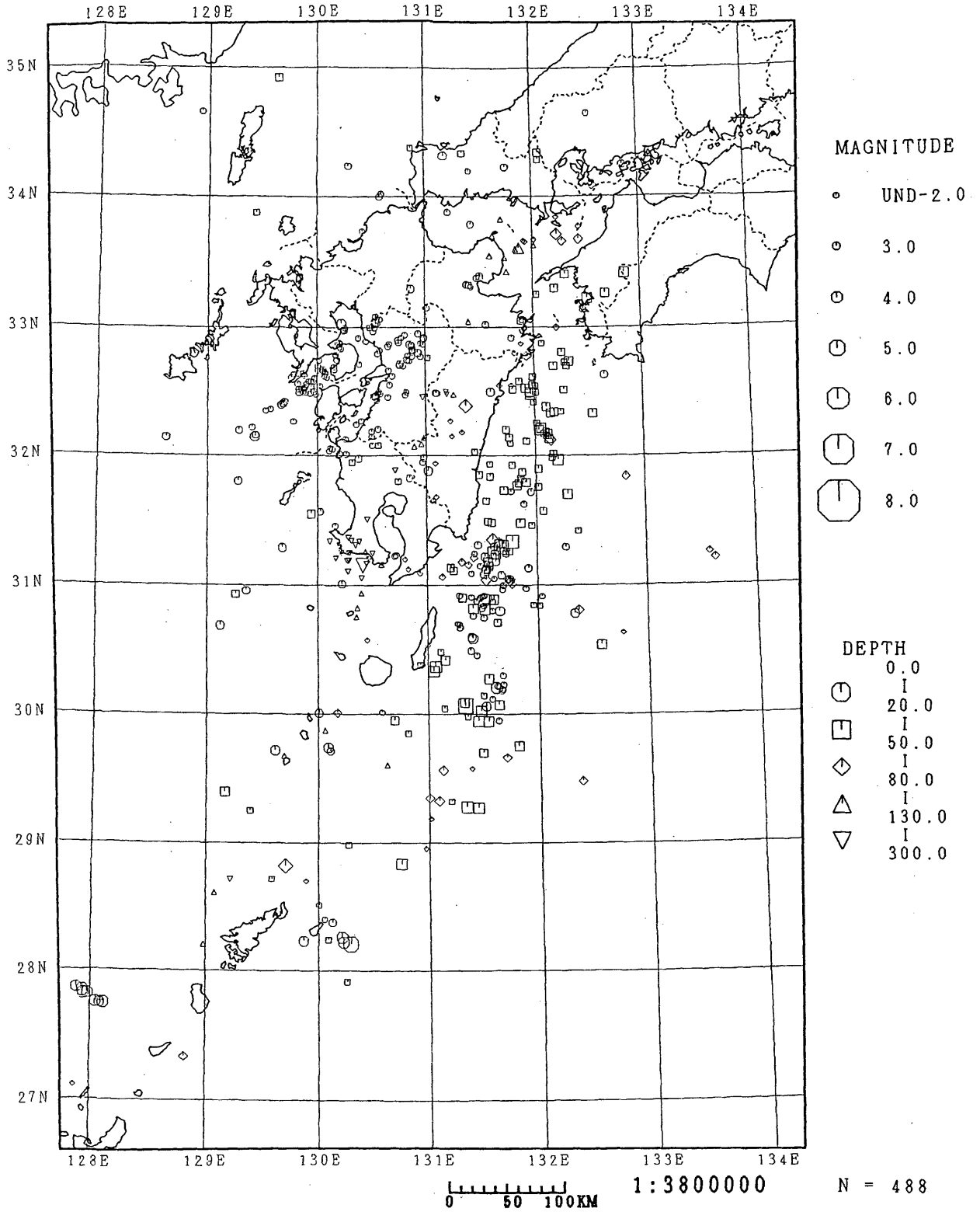
第1図 震央分布图 (1993年5月~10月)

Fig.1 Epicentral distribution map (May—October, 1993).

震央分布图

(1993/5/1 0:0-->1993/7/31 24:0)

福岡管区气象台



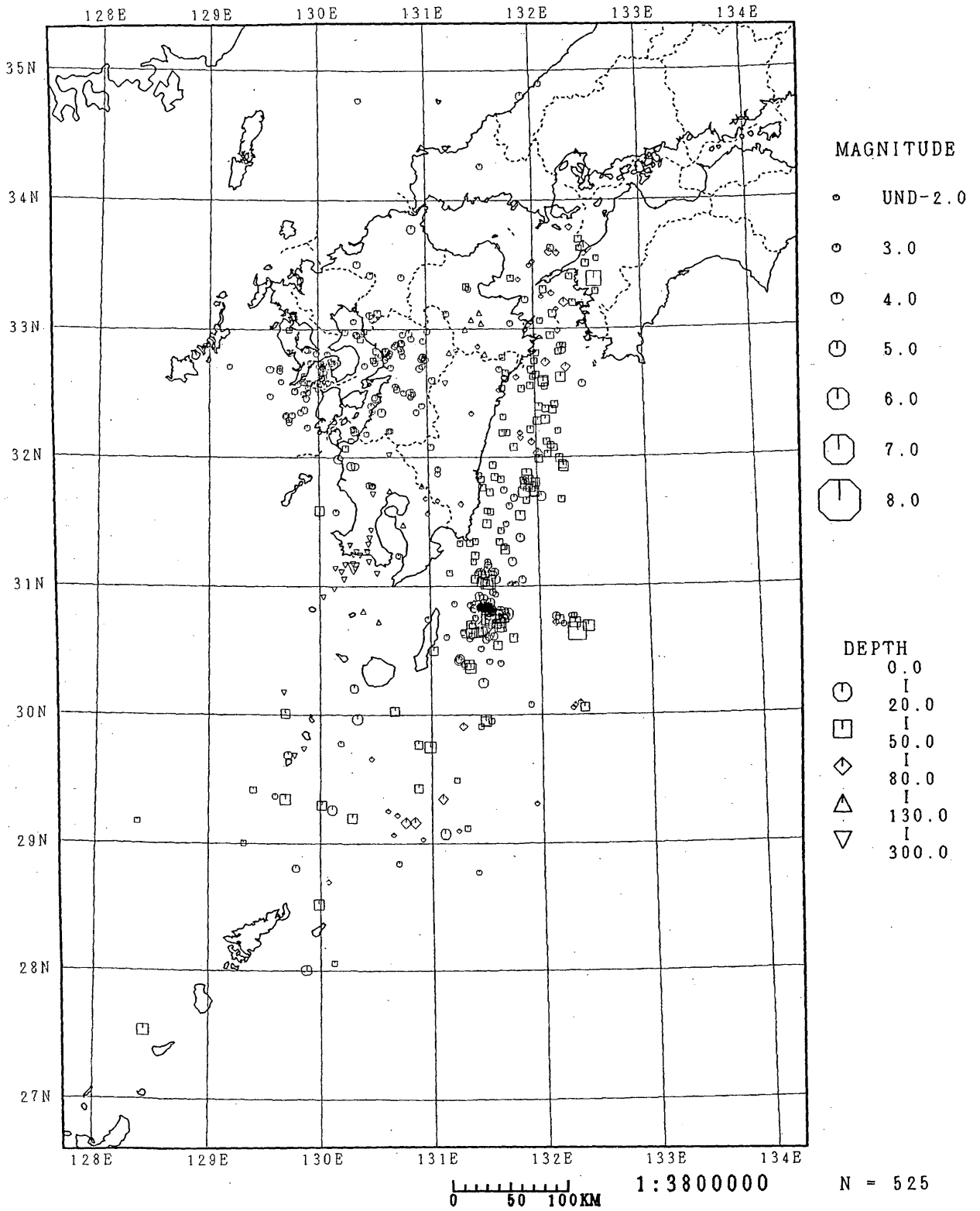
第2図 震央分布图 (1993年5月~7月)

Fig.2 Epicentral distribution map (May-July, 1993).

震央分布图

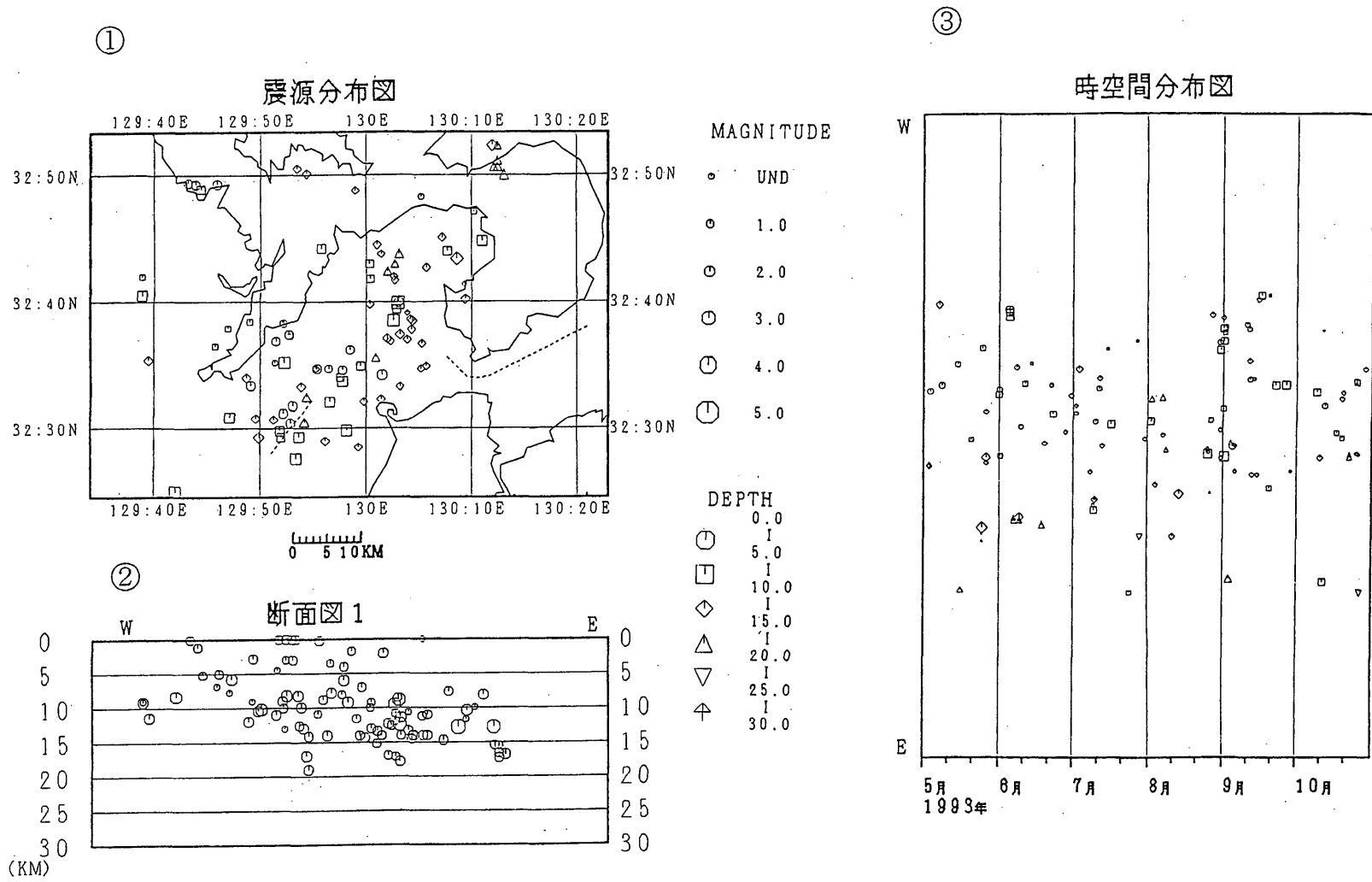
(1993/8/1 0:0-->1993/10/31 24:0)

福岡管区气象台



第3図 震央分布图 (1993年8月~10月)

Fig.3 Epicentral distribution map (August-October, 1993).

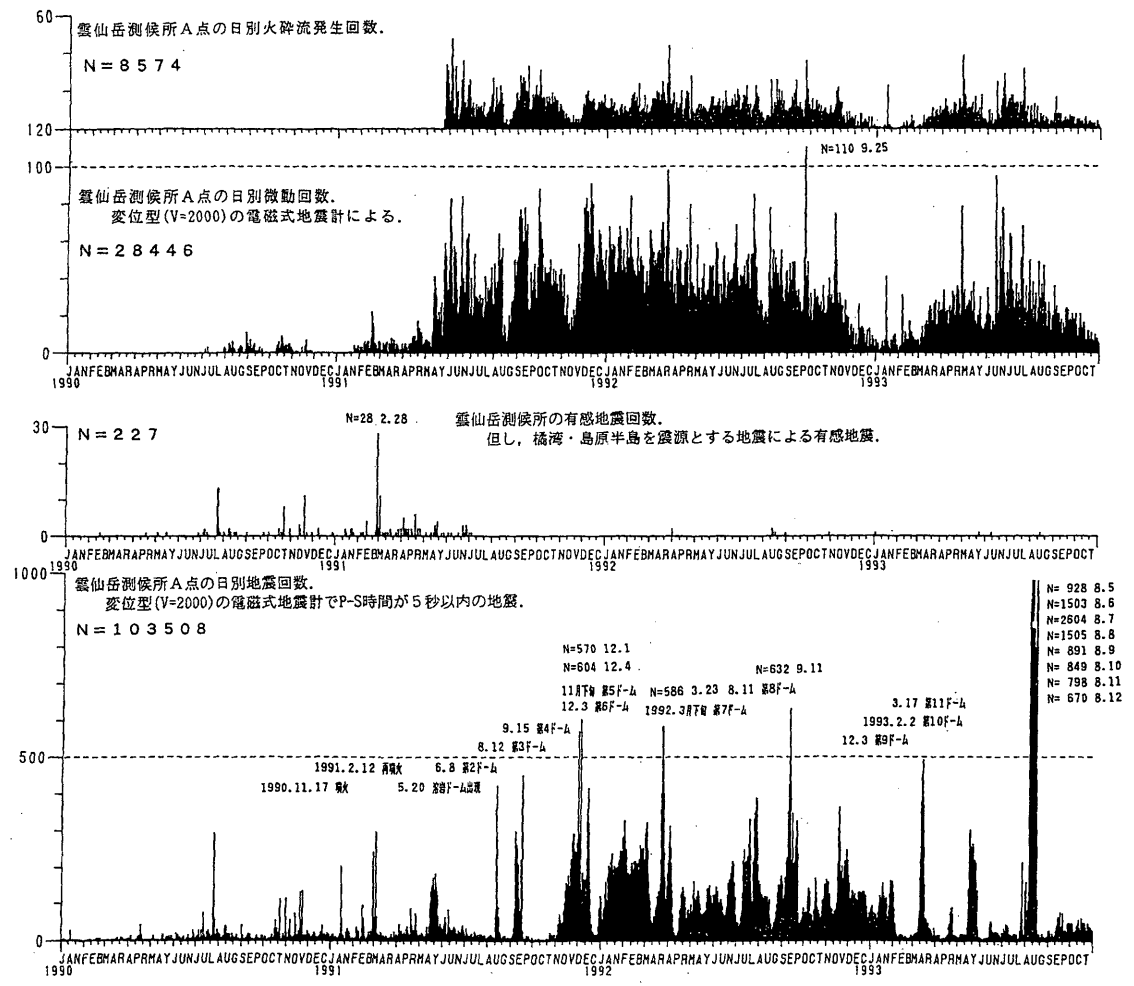


第4図 島原半島付近の地震活動 (1993年5月~10月)

①: 震央分布図, ②: 東-西断面図, ③: 時空間分布図

Fig.4 Seismic activity in and around Shimabara (May–October, 1993).

①: Epicentral distribution, ②: Vertical section of E–W, ③: Space–time plots.



但し、1991年12月までは原簿による確定値、1992年1月からは速報値。

第5図 雲仙岳測候所における日別地震回数、有感地震回数、火山性微動回数、火砕流発生回数（1990年1月～1993年10月）
A74型直視電磁式地震計（変位型2000倍）の記録でP～Sが5秒以内

Fig.5 Daily number of earthquakes (S-P time ≤ 5 sec), felt earthquakes, volcanic tremors and pyroclastic flow tremors observed by A74-type visual electro-magnetic seismograph (displacement magnification: 2000) at Unzendake weather station (January, 1990–October, 1993).